

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/13-2/20	2/20-2/27	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.026	0.025
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.019	0.015
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.033
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.022	0.023
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.024	0.022
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.021	0.020
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	0.000
		セシウム137	0.031	0.033

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		2/13-2/20	2/20-2/27	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.019	0.031
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.013	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第104回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2018年2月13日～2019年2月13日)

今回の測定における大気浮遊じんの放射能量は、セシウム137濃度が平均0.022mBq/m³で全く健康影響を心配することはありません。セシウム137は、セシウムの放射性同位体で質量数が137(陽子55個と中性子82個)の不安定核種ですが、1個の中性子が1個の電子(β線)を飛び出させ1個の陽子に変化するので、陽子が一つ増え中性子が一つ減った質量数137(陽子56個と中性子81個)の安定核種のバリウム137になります。

訂正: 前回、不安定なセシウム137は、ベータ線とガンマ線を放出し、バリウム138に変化すると説明しましたがバリウム137の間違いでした。訂正しお詫びいたします。